

奈良県桜井市 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成31年3月

**国土交通省
近畿運輸局
近畿運輸局奈良運輸支局**

奈良県桜井市の概要、公共交通に関する主な取組

市の概要

- 昭和31年に市制がひかれ、同年上之郷村、同34年初瀬町、同38年大三輪町と合併して現在の桜井市となる。
- 奈良盆地の中央東南部に位置し、北は天理市及び奈良市、東は宇陀市、南は明日香村及び吉野町、西は橿原市及び田原本町と接している。奈良市まで20km圏、大阪市へは40km圏に位置する。
- 人口は平成11年をピークに減少傾向となっており、平成31年1月末時点では57,286人、高齢化率は30.7%となっている。
- 纏向（まきむく）遺跡、箸墓（はしはか）古墳、大神（おおみわ）神社、長谷（はせ）寺、談山（たんざん）神社等、市内各地に多彩な歴史文化遺産を中心とする観光資源を有する。

奈良県桜井市
・人口：約57千人
・面積：98.91km²



桜井市
マスコットキャラクター
ひみこちゃん



公共交通に関する主な取組み

◆基本方針・計画・体制

H21	桜井市地域公共交通活性化再生協議会 発足
H23	第5次桜井市総合計画 策定
H27	桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定
H29	桜井市立地適正化計画 策定
H30	桜井市バリアフリー基本構想 策定

◆取組み

H17	桜井市コミュニティバス 運行開始
H22	上之郷デマンドタクシー 運行開始
H27	高家デマンドタクシー 実証運行開始
H29	高家デマンドタクシー 本格運行開始

桜井市
コミュニ
ティバス



上之郷、
高家
デマンド
タクシー



公共交通の現況

① 鉄道・路線バス

- 鉄道は、近鉄大阪線（大福駅・桜井駅・大和朝倉駅・長谷寺駅）とJR西日本桜井線（巻向駅・三輪駅・桜井駅）の2線が運行している。桜井駅で乗り換えが可能で、近鉄大阪線は桜井駅から東西に、JR西日本桜井線は桜井駅から北と西にそれぞれ運行されている。
- 路線バス（運行事業者：奈良交通(株)）は、桜井駅を中心に、天理市へ伸びる天理桜井線、明日香村へ伸びる桜井飛鳥線、宇陀市へ伸びる桜井菟田野線の計3系統が運行されている。

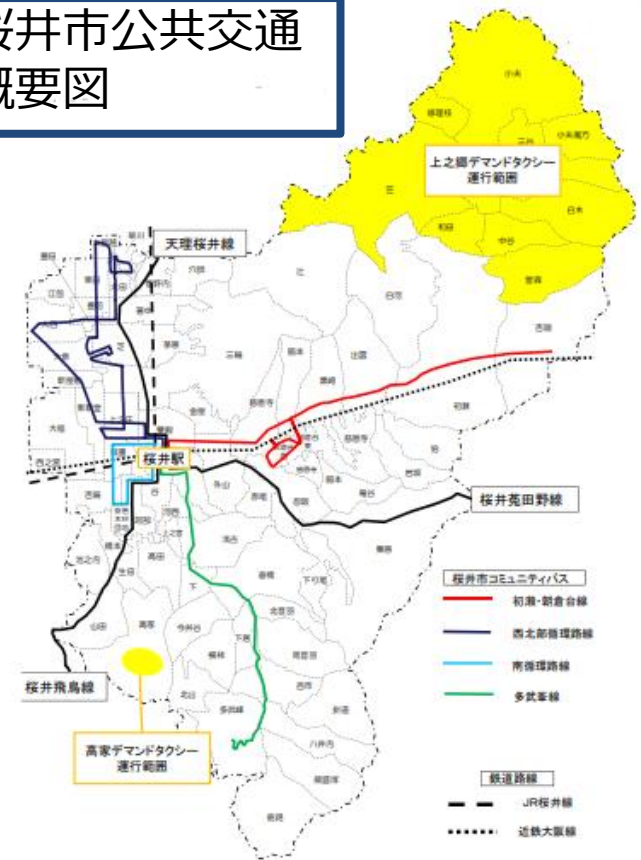
②桜井市コミュニティバス（運行事業者：奈良交通(株)）

- 奈良交通路線バスの路線維持に対する申し入れをきっかけに、平成17年10月から運行を開始
- 桜井駅を中心として、市の北西部を走る西北部循環線、中心部を走る南循環線、南部を走る多武峯線、東部を走る初瀬・朝倉台線の計4系統が運行されている。
- 運賃は、循環路線：190円均一、初瀬・朝倉台線：190～300円（上限ありの距離制運賃）、多武峯線：190～490円（距離制運賃、乗車証割引あり）となっている。
- 市内に点在する観光資源への公共交通のアクセスも可能だが、アクセスに関する情報が十分に整備されていない。
- 運行費は年々増加しており、また一部エリアでは乗降人数が極端に少ない、路線バスと路線が重複している等、効率的な運行が求められている。

③デマンドタクシー（運行事業者：日の丸交通(株)）

- 路線バスを補完する役割として、平成22年4月より上之郷地区、平成27年12月より高家地区の住民を対象に運行を開始。
- 運賃は定額（上之郷500円、高家300円）

桜井市公共交通概要図



課題

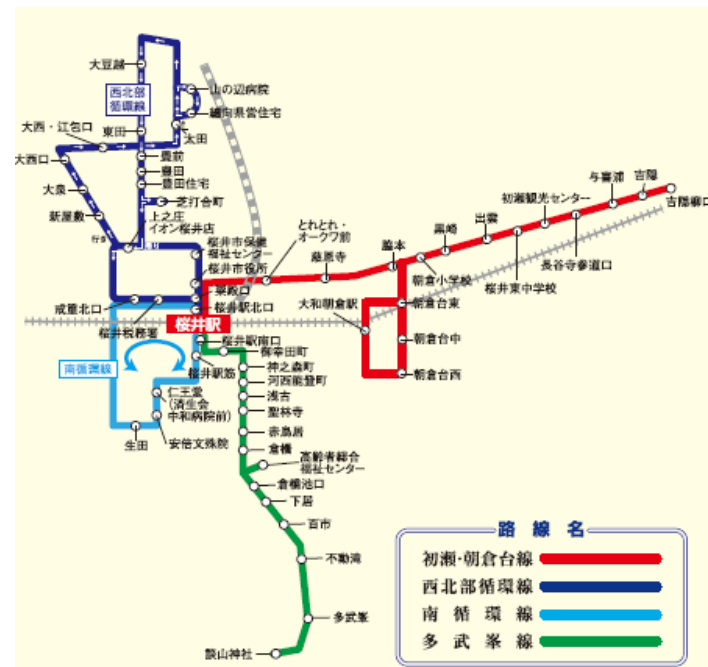
- ① 利用実態に応じたコミュニティバスの効率的な運行
② 市内に点在する豊富な観光資源への公共交通のアクセス方法・情報の充実
③ 市・住民・事業者が協働した公共交通の維持・活性化を促す仕組み作り

課題①について（奈良県桜井市）

課題 ①

利用実態に応じたコミュニティバスの効率的な運行

- 桜井市ではコミュニティバスが計4系統運行されているが、初瀬・朝倉台線の吉隠地区のような利用が非常に少ない区間、西北部循環線のようにルートが蛇行しており1回の運行に1時間以上かかる路線、南循環線の一部のような民間路線バスのルートと重複している区間があるなど、**非効率的な運行になっている部分が見られる。**
- コミュニティバスの運行を行うために市が負担する費用は年々増加しており、**市の財政を圧迫している。**
- 学生による通学での利用や観光客による観光シーズンでの利用など、限られた時間や期間に利用が集中するルートもあり、**利用者のニーズや利便性を正確に把握し、運行に反映させる必要がある。**
- 一方で、潜在的な需要はあるが、道路が狭隘であるため既存の体制では運行ができない地域も存在する。
- コミュニティバスの運行見直しにあたっては、既存の鉄道や路線バスの運行状況も考慮し、**一体的な見直しを行う必要がある。**



▲桜井市コミュニティバス路線図

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
34,681	33,796	48,895	52,580	54,647

▲自治体負担額(コミバス、デマンド合計) 単位:千円

課題①について（奈良県桜井市）

課題①への提案

- 路線バスとコミュニティバス、デマンドタクシーの役割分担を再整理し、市として提供・支援すべきサービス水準を定めたうえで、路線の必要性和利用実態の見極め、利用者負担の見直しなど様々な視点から効率化、採算性向上に向けて検討することが重要である。
- 初瀬・朝倉台線については、バス路線を与喜浦止まりとして、利用者数が極めて少ない吉隠地区には、バス路線廃止の代替手段として、デマンドタクシーを導入することも検討に値する。
- 西北部循環線については、狭隘な道路形態に即して車両を小型化するとともに、停留所をより集落に近い場所に移設したうえでの、定時定路線からデマンドへの転換も有効な手法の一つである。
- 南循環線については、民間路線バスと一部区間が重複していることから、利用数が少ない時間帯のダイヤを削減することは可能である。また、初瀬・朝倉台線との路線統合により、桜井駅での乗り継ぎの手間を解消することも有益であると考える。
- ダイヤについても、パターンダイヤ化や、鉄道との乗り継ぎを考慮したものにするすることで、利用者の利便性向上を図ることができる。
- デマンド等の新しい交通を導入する場合は、利用者数や収支率などに一定の目標値を定め、目標値に達しない場合は運行の見直しを行うなど、事前に運行の基準を定めておく必要がある。また、運行形態やルート見直し等の変更を検討する際は、沿線住民、交通事業者への事前説明を丁寧に行う必要がある。

北ループ

1周43分

平成31年2月1日改正

停留所名	8時～11時・13時～16時 ※12時台の運行はありません
① 岸和田駅前	毎時 5分
② 上野町東	毎時 11分
③ 加守町2丁目	毎時 12分
④ 春木若松町	毎時 14分
⑤ 競輪場前	毎時 16分
⑥ 府営吉井住宅前	毎時 19分
⑦ 中井町	毎時 20分
⑧ 箕土路公園前	毎時 23分
⑨ 下池田町	毎時 24分
⑩ 小松里町北(総合体育館)	毎時 28分
⑪ 市民病院前	毎時 33分
⑫ 保健センター前	毎時 38分
① 岸和田駅前	毎時 48分

交通事情により遅れる場合がありますのでご了承ください。

▲パターンダイヤ(岸和田市『ローズバス』)



▲楠ヶ丘地域乗合タクシー『くすまる』 (河内長野市)

課題②について（奈良県桜井市）

課題 ②

市内に点在する豊富な観光資源への公共交通のアクセス方法・情報の充実

- 桜井市には纏向（まきむく）遺跡、箸墓（はしはか）古墳、大神（おおみわ）神社、長谷（はせ）寺、談山（たんざん）神社等、市内各地に多彩な歴史文化遺産を中心とする観光資源を有しているが、市ホームページにそれぞれの観光施設への公共交通でのアクセス方法が記載されておらず、公共交通機関を利用して来訪する観光客にとって分かりづらくなっている。
- また、観光施策においては、「山の辺の道」等の大和地域の広域観光に取り組んでいるが、観光パンフレットや市ホームページ等に公共交通の情報が詳しく記載されておらず、公共交通機関を利用して来訪する観光客にとって分かりづらくなっている。
- コミュニティバスのバス停が最寄りとなっている観光資源もあるが、観光のページとコミュニティバスのページがリンクしておらず、観光客にコミュニティバスを便利に利用してもらえる環境が整っていない。
- 路線バスの他市町村へまたがる広域路線（桜井菟田野線、天理桜井線、桜井飛鳥線）を活性化するために、住民に対してだけでなく、桜井市に来訪する観光客に対しても活用してもらえよう周知、利用促進を行う必要がある。

▶ 大神神社



◀ 箸墓古墳



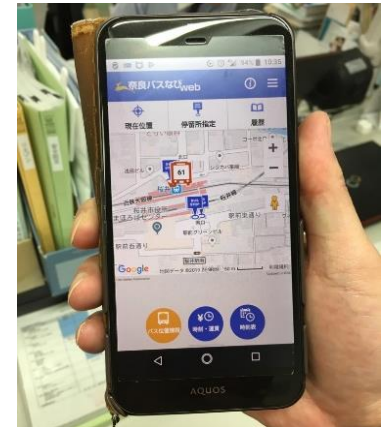
▶ 長谷寺



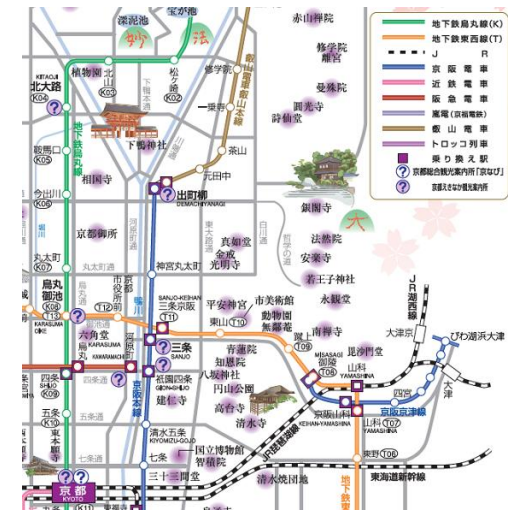
課題②について（奈良県桜井市）

課題②への提案

- 桜井市のホームページのトップページ及び観光案内のページから直接コミュニティバスの情報を掲載したページへリンクできるようなレイアウトへの更新を検討する必要がある。
- 加えて、大神神社や長谷寺等の観光施設名所が開設しているホームページにもコミュニティバスの路線情報を掲載してもらうことで、観光の際の有益な交通手段であることをPRしてもらうことができる。
- 利用者に対しては、市の観光ポータルサイトによるコミュニティバスのダイヤ等の掲載、バスロケーションシステムの導入、バス停や観光地における情報案内板やデジタルサイネージの設置などによる情報発信が効果的である。
- 公共交通に関する情報を手軽に入手できるツールとして、単なる路線図・時刻表ではなく、地図に乗継情報等の公共交通に関する情報をおとしこんだ「公共交通マップ」の作成・配布が望ましい。また、あわせて観光情報やそこへのアクセス方法を掲載すれば、住民だけでなく観光客にも活用してもらうことも可能となる。
- 一例として、公共交通情報を詳しく埋め込んだ山の辺の道等のウォーキングマップの作成等により、広域路線バスの利用振興を図ることができる。また、JR線を利用した京都―桜井―高野山ルートなど、モデルコースによる観光情報発信の検討も効果的である。
- インバウンド（欧米F I T）に対しては外国語のマップの作成・配布が効果的である。なお、インバウンド対応のための多言語化対応については、「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業」を活用することも可能である。
- 若者や外国人への情報発信を図るため、SNSの活用は効果的である。



▲奈良バスなびweb
（奈良交通(株)）



▲公共交通マップ
（京都観光Navi）

課題③について（奈良県桜井市）

課題 ③

市・住民・事業者が協働した公共交通の維持・活性化を促す仕組み作り

- 市内自治会が実施したアンケートによると、桜井市で運行しているコミュニティバスについて、「利用したことがない」「運行経路やバス停の位置が分かりづらい」「そもそもコミュニティバスが運行していることを知らなかった」などの意見があり、**情報の認知度の低さ**が利用が伸びない理由の1つと考えられる。
- 加えて「今は必要ないが、将来的には必要」「運賃が高い」という意見が多くあり、**「公共交通は利用しなければなくなってしまう」という認識や、実際の費用負担額についての認識が乏しい。**

課題③への提案

- 鉄道事業者やバス事業者と連携し、幅広い世代を対象とする「**鉄道・バスの乗り方教室**」をはじめとする**体験イベント型施策の実施**は、公共交通を知らない・利用したことがない人に対して利用促進に効果的である。
- 市民や利用者がバス路線の維持・活性化について自ら考える機会を設けるなど、**「マイレール・マイバス」意識の醸成を図る**ことが重要である。例えば、まちづくり・地域活動の一環として、高校・大学や各自治会と協働し、学生や市民と一緒に**公共交通活性化を考えるセミナーやシンポジウムの開催**なども考えられる。
- 例えば、**市内の宿泊施設や商業施設とタイアップ**し、公共交通機関を使用すればクーポンの付与や記念品の贈呈が受けられる等の取り組みは、地元住民だけでなく、国内外から来訪する観光客に対しても有効である。
- 上記イベント等、市民の外出機会の創出のための取り組みはまちづくりの観点からも有効である。



▲ノンステップバス乗降体験
(大和郡山市)

平成30年 7月31日
地域連携サポートプラン協定締結

平成30年 8月28日
桜井市と意見交換

平成30年 8月31日
奈良交通（株）と意見交換

平成30年11月22日
コミュニティバス乗り込み調査

平成30年12月12日
桜井市と意見交換

平成31年1月17日
桜井市と意見交換

平成31年2月26日
地域連携サポートプラン課題研究会

平成31年3月26日
地域連携サポートプラン提案書交付



▲サポートプラン協定締結式



▲サポートプラン課題研究会



▲サポートプラン意見交換、現地調査